

3 改善のポイント

POINT 1

- 決まった大きさに布を裁断できるように補助具を工夫しました。

オリジナル裁断機



印に布を合わせ、ロータリーカッターで切ることで、効率よくまっすぐに裁断出来るようになりました。

POINT 2

- 個人ごとの引き出しを用意し、必要な道具を整理しました。



道具の準備や片付けを、写真カードと照らし合わせながら、一人で出来るようになりました。

刃物や針の数も個人ごとに管理が出来るようになりました。

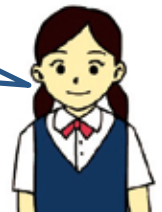


物品庫から運ぶ



自分のトレーを準備

何回も測り直しながら切っていましたが、印に合わせて真っ直ぐに切れるので仕事がやりやすくなりました。準備や片付けも一人で出来るようになりました。



4 授業者がわかったこと

- 不良品が減り、意欲的に作業に取り組めるようになったことで作業効率が上がりました。
- 作業で利用する物品を移動式のロッカーに整理したことで、一人一人が責任をもって準備や片付けが出来るようになりました。
- 刃物や針の数を授業前後で教員とともにチェックを行うことで、安全管理の意識が高まりました。



効率よく作業が出来る環境の整備

改善事例6

<ハンドワーク班>

1 授業改善の視点

【現状】



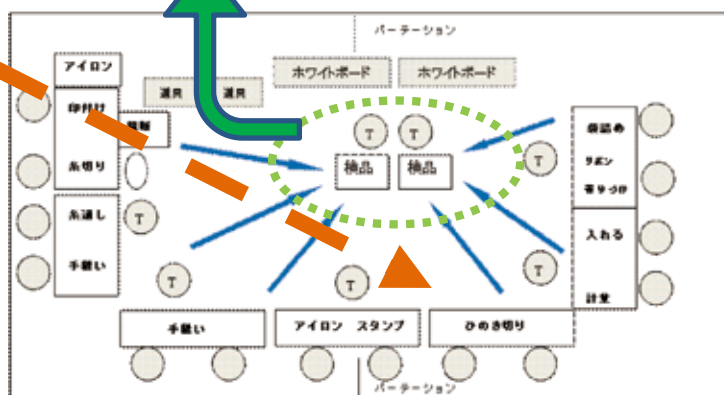
「ひのき切り」の工程例

- ①トレーに5本の「ひのき片」を入れる。
- ②一本ずつ、はさみで5mm幅に切る。
- ③5本終わると検品を受ける。
- ④次の材料を受け取る。



検品

検品担当の教員を配置し、良品の確認を行う。



- におい袋に入れる「ひのき切り」の作業では、作業効率が上がりず作業に集中出来ていないようです。
- 「ひのき切り」では、5本ずつ検品をしているため、検品に並んで待っている時間が長くなってしまいます。
- 検品場所を教室の中央に配置していますが、一人一人の検品に時間がかかってしまうために生徒が並んでしまいます。



2 専門家からのアドバイスと改善の方策

- 材料が透明なトレーに入っているため、取り出しづらく見えにくいです。生徒が作業しやすいように工夫しましょう。
- 作業目標が分かると、見通しをもって作業が出来ると思います。
- 検品場所が雑然としているため、物品を見つけるのに時間が掛かっていますので、物品を整理するようにしましょう。
- 出勤札を利用していますので、打ち合わせで再度出席の確認をする必要はありません。全体打ち合わせの時間を短くして、作業時間を確保しましょう。

3 改善のポイント

POINT 1

- 透明なトレーから、青色の画用紙を敷いた紙箱に変更しました。
- 材料を洗濯バサミにはさみました。

- 材料が見やすくなりました。
- 材料が数えやすくなりました。

- 検品を10本単位としました。
(洗濯バサミに挟んだ材料が無くなれば報告する。)

洗濯バサミを数えることで、目標数が分かり、見通しをもちやすくなりました。



POINT 2

- 検品場所の物品を、キャスター付の引き出しに整理しました。

検品の場所が整理されたことにより、検品作業がスムーズに出来るようになり、生徒の待ち時間が短くなりました。



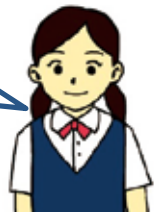
POINT 3

- 出勤ボードを可動式にして、全体打ち合わせで利用するようになりました。

全体打ち合わせで出席の確認をする必要がなくなりました。



洗濯バサミを数えると出来上がった量が一目でわかるので、何度も確認しなくてもよくなりました。検品に行く回数や、並ぶ時間が短くなったので、担当する作業に集中出来るようになりました。



【Fさん】

4 授業者がわかったこと

- 作業がやりやすくなったことで、集中して作業に取り組めるようになり、作業効率が高まりました。
- 検品に並ぶ時間が短くなったので、作業班全体の作業量が増えました。
- 授業開始時の打ち合わせ時間が短くなり、作業時間を確保出来るようになりました。



生徒が自分で「判断」できる手順書の工夫 改善事例7

〈クリーンサービス〉

1 授業改善の視点



【Gさん】

分担した場所は綺麗になったと思うけど、これでいいのかな。
次に何をすればいいのかわからないからとりあえず待ってしよう。



- 綺麗になったという「終わり」が自分では分かりにくいようで、その都度教員が確認しなければなりません。
- よく考えずに、バケツなどの清掃道具を床に置いてしまうので、足元が不安定になり、その都度指示が必要です。
- 次に何をすればよいか分らず、うろうろしたり、座り込んでしまったりすることがあり、作業に集中できていないようです。



2 専門家からのアドバイスと改善の方策

- 生徒によって、拭き方や雑巾の使い方などの手順が違います。生徒が自分で正誤の判断が出来るよう、「生徒用手順書」を作成しましょう。
- 生徒一人一人の特性にあった役割分担を行い、作業工程を見直しましょう。
- 生徒が、足元などに物品等を置いておくことがないように、手順書で確認するようにしましょう。

※教員の関わり方

- 教員によって指示の出し方が異なることがないように、教員の指示を統一しましょう。